

魚種（海域）：スケトウダラ（道南太平洋海域）

担当：函館水産試験場（武藤 卓志），栽培水産試験場（城 幹昌）

要約

評価年度：2016年度（2016年4月～2017年3月）

2016年度の漁獲量：40,520トン（前年比0.81）

資源量の指標	資源水準	資源動向
刺し網資源量指数	中水準	横ばい

漁獲量は約40,520トンと前年より減少した。この海域の漁獲物の主体は4歳～6歳であり、近年の来遊資源量は、高豊度年級群であった2005年級群や2007年級群が漁獲加入したことで、2009年度～2012年度にかけて資源状態は比較的高い水準で推移した。すなわち、当海域の来遊資源量は、豊度の高い年級群が数年置きに発生し、これらが4歳で漁獲加入することで、変動しつつも維持されてきた。しかし、豊度の高い年級群の高齢化や2010および2011年級群の豊度が低かったことから、2013年度以降の来遊資源量は連続して減少している。2017年度にかけても、豊度の高い年級群の加入はないとみられるが、来遊資源量の増減率は1995年度以降の増減率の範囲内と推定されることから、資源動向は横ばいと判断した。なお、太平洋系群全体の資源評価では、現在の漁獲強度は概ね適切なレベルを維持しており、今後も数年置きに高豊度年級群が発生するのであれば、現状の漁獲努力の下でも資源は維持される可能性が高いと考えられる。

1. 資源の分布・生態的特徴**(1) 分布・回遊**

太平洋側のスケトウダラは房総沖から千島列島にかけて連続して分布する。産卵期には主に胆振・渡島海域に来遊する。当海域のスケトウダラは道東太平洋海域のものと同一系群と考えられている。

(2) 年齢・成長（加齢の基準日：4月1日）

満年齢	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳
尾叉長(cm)	18	27	34	39	44	47	50	52
体長(cm)				36	41	44	47	49
体重(g)	105	182	360	467	525	587	657	799

体重は平成28年度我が国周辺水域の漁業資源評価¹⁾より、8歳については、8歳以上をまとめたもの。体長は水試測定資料に基づく尾叉長-体長関係から算出。

(3) 成熟年齢・成熟体長

・オス：3歳で成熟を開始し、4歳で大部分の個体が成熟する。

- ・メス：3歳で成熟を開始し，4歳で大部分の個体が成熟する。
(平成28年度我が国周辺水域の漁業資源評価¹⁾ より)

(4)産卵期・産卵場

- ・産卵期：12月～3月であり，盛期は1月～2月である。
- ・産卵場：噴火湾内および胆振～噴火湾湾口部～渡島海域に至る水深200m以浅の海域である。※道南太平洋海域は太平洋系群の主産卵場である²⁾。

(5)その他

産卵場に集まってくる産卵親魚を漁獲対象としているため，漁獲物の大半は4歳以上の成魚である(図1)。また，高齢魚の漁獲割合は漁期後半に多い傾向がみられる(図2)。

2. 漁業の概要

(1)操業実勢

漁業	漁期	主漁場	主要な漁具	着業隻数
沿岸漁業	10月～3月	道南太平洋海域	刺し網(スケトウダラ固定式)， 定置網(底建網も含む)	(スケトウダラ固定式刺 網許可隻数) 渡島：499隻，胆振：169 隻
沖合底曳き 網漁業	9月～5月	道南太平洋海域(噴火 湾内を除く)	かけまわし	室蘭：5隻，浦河：1隻， 様似：1隻

(2)資源管理に関する取り組み

- ア) 1997年よりTAC対象種に指定されており，漁獲量が管理されている(表1)。
- イ) 未成魚保護のための資源管理協定に基づく体長制限(体長30cm又は全長34cm未満)が実施されている。体長30cm又は全長34cm未満の漁獲は20%を超えてはならず，20%を超える場合は漁場移動等の措置を講ずることとなっている。
- ウ) スケトウダラ固定式刺し網漁業では，2007年度以降(2008年度は除く)，行政指導による操業規制が行われた。各年度に実施された取り組みについては以下の通り。
- ・2007年度は，漁期途中で漁獲量がTAC配分量に達したため，胆振管内では1月9日に，渡島管内では1月30日に操業を終了した。
 - ・2009年度は，漁期始めから好漁となり，早期にTAC数量に達する可能性があったことから，漁期前半から刺し網の操業規制を実施したものの，1月24日にTAC配分量に達したため，両管内とも操業を終了した。
 - ・2010年度からスケトウダラ固定式刺し網漁業においてTAC先行利用枠(10,000トン)が導入された。また，10月の刺し網漁業の漁獲量の上限を8,000トンに規制したことに加え，2009年度同様，刺し網漁具の反数規制を行った。このような規制を行ったに

もかかわらず漁期後半に TAC 配分量を超える可能性が生じたことから、先行利用枠を利用した操業が行われた。この枠を利用して漁獲努力量を抑えながら操業を継続し、1月31日、先行利用枠4,400トンを利用した時点で両管内とも操業を終了した。

- ・2011年度は、恵山、南茅部地区を除く渡島および胆振管内においては、魚価の安い10月の操業を自粛し、例年より1ヶ月遅い11月1日に操業を開始した。
- ・2012 および 2013 年度は、恵山、南茅部、鹿部を除く渡島、胆振管内においては、10月15日に操業を開始した。

3. 漁獲量および漁獲努力量の推移

(1) 漁獲量

当海域全体の漁獲量は、1960年代後半～1980年代前半には4～8万トン、1980年代後半は8万～11万トン、1990年度～1997年度になると6万～8万トン前後で増減を繰り返してきた。その後、1998年度～2000年度には卓越年級群であった1994および1995年級群の加入により、9万～15万トンの非常に高い漁獲量を記録したが、2002年度には1985年度以降で最低の3.6万トンまで急減した。2003年度以降、再び増加に転じ、2004年度には豊度の高い年級群であった2000年級群の加入で9万トン台となった。その後、卓越年級群となった2005年級群が加入した2009年度に8.4万トン、2010年度に9.6万トンまで増加したが、それ以降は再び減少傾向となり、2014年度は6.4万トン、2015年度は5.0万トン、2016年度は4.1万トンと3年連続して前年を下回った（図3、表2）。

振興局別にみると、最も漁獲量の変動が大きいのは渡島管内であった。渡島管内の漁獲量は1960年代後半から1970年代前半にかけて、および1980年代後半から2000年代初頭にかけては5万トンを上回っていたのに対し、1975年代後半から1980年代前半にかけてと2000年代以降では4万トンを下回る年が多くなった（図3）。直近の2016年度の渡島管内の漁獲量は9.2千トンで、前年度（9.6千トン）とほぼ同等であった。胆振管内の漁獲量は渡島管内と比較すると変動は小さく、1990年代半ばを除き、1万～3万トンで推移している。直近の2016年度の胆振管内の漁獲量は1.2万トンで前年度（1.9万トン）よりも減少した。日高管内の漁獲量は他の2つの地域と比べると少ないが、2010年代以降徐々に漁獲量が増加している。2016年度の日高管内の漁獲量は5.1千トンで前年度（5.3千トン）とほぼ同等であった。このような変化を反映して、1985～2000年ごろまでは、渡島管内の漁獲の割合が高かったが、それ以降は渡島管内の漁獲が減少していったことが主な要因となって、胆振管内の漁獲割合が増加していき、2013年度ごろからは日高管内の漁獲割合が1割を超えるようになってきた（図4）。

漁法別にみると、刺し網漁業では、2002年度に2万トンを下回ったが、2004年度～2008年度は4万トン台、2005年級群が加入した2009および2010年度は5.5万トン前後まで増加した。その後、2011年度～2014年度までは4万トン台で推移していたが、2015年度は3.2万トン、2016年度は2.5万トンと2009、2010年度の数量から半減以下となった。定置網漁業では、2004年度および2010年度は2万トンを上回ったのに対し、2002年度は1千

トンを下回るなど、漁獲量の年変動が大きい。2016年度は924トンと1985年度以降の最低値であった2014年度（759トン）並みであった。なお、2007年度以降、胆振、日高海域の定置網における漁獲量が増加傾向となっていたが、2014年度以降はほぼ以前の状況に戻った（図5）。沖底漁業では、2000年度以降、2002年度に1.5万トン、2007年度に2.7万トンとなった以外は、2.0万トン前後で安定した推移となっていたが、2015年度には2万トンを下回り（1.6万トン）、2016年は1.5万トンまで減少した（表2、3）。産卵場周辺海域の24～27海区（表3）では、2002年度に1万トンを下回った以外は、1.1万～1.7万トンで推移している。2016年度も1.1万トンであったが、2001年度以降の最大値となった2014年度（1.7万トン）から2年連続して減少した。

(2) 漁獲努力量

刺し網漁業における10月～1月の網数は、2003年度～2007年度にかけて105万反～138万反で徐々に増加傾向にあったが、2008年度～2010年度にかけて急減し、2010年度は59万反、2011年度～2013年度は52万反前後、2014年度以降は50万反を下回り2014年度は47.5万反、2015年度は43.2万反、2016年度42.8万反と徐々に減少している（図6）。

沖底漁業における10月～1月の曳網回数は、1998年度～2004年度までは2千回前後で推移していたが、2005年度には2.4千回、2007年度には2.6千回台まで増加した。その後は、一転して減少傾向となり、2011年度にはやや増加したものの、2013年度以降は2千回を下回り、2016年度には、1990年度以降で最低の1.6千回となった（図7）。なお、2013年度から室蘭根拠の沖底船は1隻減船し、6隻から5隻になっている。

(3) TACの推移

暦年集計から年度集計に変更になった2001年度以降のTACは、北海道知事管理分の道南太平洋海域では62,400トン～98,500トン、大臣管理分（道東・道南・東北の太平洋海域）では92,000トン～145,000トンで推移している。2010年度の知事管理分の道南太平洋海域については、2009年度と同量の63,400トンであったが、先述したとおりスケトウダラ固定式刺し網については、翌年のTAC数量から10,000トンの先行利用枠が設けられたため、73,400トンに修正された。2011年度については、2010年度当初のTAC数量と同量の63,400トンが配分されたが、2010年度に先行利用された4,000トンを差し引いて59,400トンとなった。しかし、7,500トン（すけとうだら固定式刺し網では5,400トン）の追加配分があったことに加えて2011年度も翌年のTAC数量から10,000トンの先行利用が認められたことから、76,900トン（刺し網で57,400トン）となった。2012年度については、2011年度当初のTAC数量と同量の63,400トンが配分されたが、6,600トン（刺し網で4,700トン）の追加配分があったことに加えて2012年度も10,000トンの先行利用が認められたことから、80,000トン（刺し網で60,700トン）となった。2013年度については、2012年度当初のTAC数量と同量の63,400トンが配分されたが、3,700トン（刺し網で2,700トン）の追加配分があったことに加えて2013年度も10,000トンの先行利用が認められたことから、77,100

トン(刺し網で58,700トン)となった。2014年度以降の配分量は、2014年度63,400トン、2015年度68,400トン、2016年度66,900トン、2017年度68,100トン(刺し網49,400トン)となっている(表1)。

4. 資源状態

(1) 現在までの資源動向

・刺し網漁業の資源量指数の推移(漁獲成績報告書)

漁獲に占める割合が最も高い刺し網漁業の資源量指数(重量ベース)は、2003年度には700台であったが、その後、増加傾向を示し、2006,2007年度には1,300台になった。2008年度にはやや下がったものの、2009年度には2005年級群の加入により2,000台、2010年度には2,600台まで増加した。その後は徐々に減少傾向となっており、2016年度の指数は1,459であった(図8)。なお、2011年度については、鹿部およびいぶり中央漁協根拠船が10月末まで自主休漁した。これによって、CPUE算出データである10月の漁獲量も努力量も前後の年度と比べて大きく減少したことから2011年度の10月の資源量指数は過小評価となっている。

刺し網漁業の年齢別資源量指数(尾数ベース)は、毎年5歳~6歳が高い割合を占め、2003年度には1,200台であったが2007年度には2,300台まで増加した。2009年度には4歳(2005年級群)の増加により約4,000に、2010年度も5歳(2005年級群)が主体となり5,000近くまで増加した。その後は、各年齢の資源量指数は年により異なるものの資源量指数全体としては徐々に減少し、2016年度は約2,500まで減少した(図9)。とくに2010年級群(2014年度の4歳、2015年度の5歳、2016年度の6歳)の資源量指数は低い値となっている。

・刺し網漁業の標準化CPUEの推移(操業日誌)

代表船による操業日誌に基づく標準化CPUEは、2010年度には48.7であったが、2011年には52.9に上昇した。しかし、それ以降は低下していき2014年度には35.6となり、その後さらに急激に低下していき、2016年度では15.9となった(図10)。

・沖底漁業の資源量指数の推移

沖底漁業における資源量指数は、1990年度~1998年度までは1995年度の4万台を除き、1万~3万台で推移していたが、1999年度には約5.9万、2000年度には約7万まで急増した。2002年度~2010年度は約2.5万~5.0万で増減していたが、2011,2012年度と2年連続して前年度を大きく上回り、2012年度は1990年度以降では最大の7.2万となった。その後は減少傾向となり、2016年度は4.9万となった(図11)。

・計量魚探調査結果

計量魚探調査によるスケトウダラ産卵群の反応量(S_t 累積値)の経年変化を図12に示した。1次調査(8月下旬)の反応量(m^2/nm^2)の経年変化をみると、2001年度では6.9万であったが、その後増加傾向となり、2004年度~2007年度には、10.6万~19.5万で推移した。2008年度には5.6万まで減少したが、2009年度に2005年級群が4歳で加入したことから、2009年度~2011年度は28万台の高い水準となった。2012年度から2年連続して急

減し、2013年度には10万程度となったが、2014年度は一転して34万台まで増加した。2015年度からまた減少傾向となり、2016年度は15.4万であった。また、2次調査（11月中旬）の反応量は、2001年度には41万であったが、その後、徐々に増加し、2007年度には280万になった。2008年度には122万に減少したが、2009年度には1次調査同様、2005年級の加入で急増し、2001年度以降の最高値となる420万となった。2010年度以降は増減があるものの減少傾向となっており、2016年度は2015年度と同程度の99.6万であった。なお、2010および2011年度の2次調査結果については、計量魚探調査期間中に調査海域外となっている沿岸域に設置されている定置網に11月～12月にかけて産卵群がまとまって入網したことから（表3）、反応量は過小評価となっている可能性が高い。

・年齢別漁獲尾数の推移

1980年代中頃以降、4歳～6歳を中心に1億尾～2億尾で推移していたが、2年連続で発生した卓越年級群（1994および1995年級）の漁獲加入により1998年度には2.5億尾、1999年度には3.0億尾と増加した。その後は、後続年級群の豊度が低かったことやこれら卓越年級群の加齢に伴い、2002年度には過去最低の0.5億尾まで減少したが、2004年度には比較的豊度の高いと推定された2000年級群の漁獲加入により1.8億尾まで増加した。2005年度～2008年度は1.2億尾～1.5億尾で比較的安定した推移であったが、2009年度には2005年級群の加入により、2009年度は1.7億尾、2010年度には1.8億尾まで増加した。2011年度以降は、2007年級群や2009年級群が4歳魚～6歳魚として比較的多く漁獲され資源を支えていたが、2010年級群以降の4歳漁獲尾数は連続して低く、これに伴い年齢別漁獲尾数は減少し、2016年度は0.7億尾であった（図13）。

・資源尾数および資源重量

VPA解析における最近年の資源尾数や漁獲係数については、刺し網漁業の操業規制の影響や産卵場に来遊する産卵群の分布の偏りなどの影響により、相当の誤差を伴って推定されている可能性が大きい。そのため、2011年度評価からVPA解析に基づく資源評価を中止しており、今年度の資源評価においてもVPAによる解析結果は参考資料として取り扱うこととした。

VPAで推定した4歳以上の資源尾数は、1980年代中頃以降、加入量（4歳魚）の変動を反映して3億尾～6億尾台で増減を繰り返していたが、1994年級群が加入した1998年度には8億尾、1995年級群が加入した1999年度には8.5億尾まで増加した。その後も卓越年級群またはそれに準ずる豊度の高い年級群が加入すると資源尾数は増加し、2000年級群が加入した2004年度、2005年級群が加入した2009年度、2007年級群が加入した2011年度は6億尾を上回った。また、これらの年級群が高齢化するに伴って資源尾数は減少し、2006年度および2014年度以降は5億尾を下回った。なお、2014年度に加入した2010年級群は豊度が非常に低い年級群¹⁾とみられることから、2015年度は3.7億尾、2016年度は2.6億尾まで資源尾数は減少したと推定された（図13、付表）。4歳以上の資源重量も資源尾数とほぼ同様のパターンで変化しており、2016年度の資源重量は21万トンと推定された。

(2)2016年度の資源水準：中水準

資源水準の判断に関しては、道南太平洋海域の漁獲量の6割以上を占め、産卵群の分布の中心域で漁業を行っている刺し網漁業の資源量指数（漁獲成績報告書）を用いた。資源水準を評価した期間については、刺し網漁業の資源量指数を算出する基となった漁獲成績報告書データの収集が2003年度から開始されたため、2003年度～2015年度の13年間とした。この間の平均値を100とし、 100 ± 40 の範囲を中水準、その上下をそれぞれ高水準、低水準とした。2016年度の刺し網漁業の資源量指数を用いた水準指数は89であったことから（図14）、2016年度の資源水準は「中水準」と判断した。

(3)今後の資源動向：横ばい

道南太平洋海域の漁獲物の主体は4歳～6歳となっており（図1）、2016年度では、4歳が2012年級群、5歳が2011年級群、6歳が2010年級群であったが、このうち、2010及び2011年級群は豊度の低い年級群とみられている¹⁾。2012年級群も漁獲物に占める割合から豊度が高い年級群の可能性は低いことから、2016年度の来遊資源量は2009年以降で最も低くなったと考えられる（図9、13）。2017年度の来遊資源量については、5歳～8歳以上についてはVPAの前進計算により求めた。また、4歳（2013年級群）については、当海域と同じ系群の未成魚期や索餌期の個体を漁獲している道東太平洋海域の状況をみても資源水準を的確に予測できる情報はないが^{1,3)}、2014年度以降は4歳の来遊資源量が低位で推移していることから（図13）、2017年度も同様の傾向が続く可能性が高いと判断し、2014年度～2016年度（2010年級群～2012年級群）の平均値をあてはめた。これによると、2017年度の4歳以上の来遊資源量は18.7万トンとなり、2016年度（20.7万トン）から10%減となったが、1995年度～2016年度の平均増減率（17%）の範囲内となったことから、横ばいと判断した。

5. 資源の利用状況

(1)漁獲割合

10月～翌年3月における渡島、胆振管内の沿岸漁業（刺し網、定置網）及び24海区～27海区における沖底漁業の漁獲量はほぼ産卵親魚で占められることから、これを太平洋系群全体の親魚量¹⁾で除すことで漁獲割合を算出した（図15）。これから、産卵群の漁獲割合をみると、1985年度以降、漁獲割合は10%～47%の範囲となっていた。とくに、TACによる漁獲管理が開始されてからは、漁獲割合は低下傾向を示しており、2012年度～2016年度は10%～12%となっている。2000年度以前はおおよそ30%以上で推移していたことから、近年の漁獲圧は大きく低下していると考えられる。

(2)資源の利用状況の変化について

近年の道南太平洋海域におけるスケトウダラ刺し網漁業の漁獲状況をみると、2000年度前後までは渡島振興局管内での漁獲が6割以上を占めていたが、2000年代に入ると胆振・

日高振興局管内での漁獲が全体に占める割合が増加しており、2014年度以降の渡島振興局管内における漁獲は4割以下まで減少するとともに日高の割合が1割を超えてきている(図4)。産卵期直前に行った2次調査(11月)の結果をみても、近年の産卵群の分布は主に胆振から日高にかけて多い傾向がみられていることから(図16)、スケトウダラ産卵群の来遊時期や経路が以前と比べて変化してきていることが示唆される。資源の利用状況の変化に対応した調査体制については、日高海域における沖底漁業の漁獲物データを日高地区水産技術普及指導所を通じて2013年度から収集している。また、2015年度より道南太平洋海域だけでなく、道南～道東太平洋にかけて広範囲に産卵群の分布や量の把握を目的とした調査を開始しており、来遊時期や経路の変化の影響を排除した産卵群全体の現存量の推定を試みている。

(3) 資源の利用状況

道南太平洋における漁獲割合は近年低い水準で推移している。また、太平洋系群全体で見ると、現状の漁獲係数($F_{current}$)は、仮定された再生産関係のもとで資源の現状を維持する漁獲係数(F_{sus})を下回っており1)、現在の漁獲強度は概ね適切なレベルを維持していると考えられる。当海域への来遊資源は産卵親魚である4～6歳が主体であり、数年おきに発生する卓越年級群が資源を支えている(図17)。したがって、今後も卓越年級群が数年おきに発生すると仮定すれば、現在の資源の利用状況は概ね適切であると判断できる。一方で、2010年級群～2012年級群の年級群豊度は低い可能性が高く、これ以降の年級群豊度を早期に把握することが重要である。

評価方法とデータ

(1) 資源評価に用いた漁獲統計

沿岸漁獲量	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漁業生産高報告（ただし 2015, 2016 年度の値は暫定値） ・ 関係指導所の集計した 2016 年 1 月～3 月の漁獲量 ・ すけとうだら固定式刺網漁業漁獲成績報告書（本文中では漁獲成績報告書と略した）
沖底漁獲量	<ul style="list-style-type: none"> ・ 北海道沖合底曳網漁業漁場別漁獲統計年報（北水研・水産庁）の中海区「襟裳以西」の合計値（なお、2015 年度においては、別途集計資料も含む）

(2) 年齢別漁獲尾数の推定方法

沿岸漁業に関しては、刺し網漁業では漁期中の 10 月～2 月に月 1 回、渡島・胆振地区でそれぞれ漁獲物の生物測定を行い、得られた情報から月別・地区別の平均体重および年齢組成を算出した。また、沖合漁業に関しては、渡島～胆振海域で、沖底漁業盛漁期の 12 月および 1 月に漁獲物の生物測定を実施し、平均体重および年齢組成を算出した。次に、月別・地区別・漁業種類別の漁獲量を、対応する平均体重で除すことにより月別・地区別・漁業種類別漁獲尾数を算出した。これに対応する年齢組成比を乗じて月別年齢別漁獲尾数を算出した。得られた月別年齢別漁獲尾数を合算し、各年度の年齢別漁獲尾数を算出した。ただし、2012 及び 2015 年度に関しては、定置網漁獲物の生物測定ができなかったことから、定置網漁獲物の組成は刺し網漁獲物の組成で代用した。また、2013 年度からは、日高海域における沖底漁獲物の測定データを日高地区水産技術普及指導所より入手し、日高海域の沖底漁業についても年齢別漁獲尾数を算出した。

(3) 資源量指数の計算方法

・ 沖底漁業の資源量指数

沖底年報の襟裳以西海域のうち、スケトウダラの産卵場周辺海域（沖底年報の海区コードの小海区 24～27：付図 1）を緯度および経度 10' メッシュで分割した漁区において、10 月～1 月の漁区別漁獲量を漁区別曳網回数（全曳網数）で除すことにより、漁区別 CPUE（1 曳網あたりの漁獲量(kg)）を算出した。この漁区別 CPUE を合算したものを沖底漁業の資源量指数とした。なお、沖底漁業の主漁期は 9 月～2 月であるが、9 月においては産卵場周辺海域（24 海区～27 海区）での漁獲量は少ないこと、また、2 月では努力量の年変動が大きく資源量指数を算出するのに適していないことから、この 2 ヶ月は集計対象には含めなかった。また、資源量指数では、曳網回数が 10 回以下の漁区は集計対象から除外した。

・ 刺し網漁業（漁獲成績報告書：重量ベース）

渡島および胆振総合振興局が 2003 年度から収集している漁獲成績報告書を手し、スケ

トウダラ漁獲量の比較的多い南かやべ、鹿部およびいぶり中央漁協の月別の漁獲量、網数データから刺し網漁業の月別資源量指数を算出した。月別資源量指数は、漁獲成績報告書から月別・漁区別 CPUE (kg/反) を集計し、漁区別 CPUE を月別に合算することにより算出した。月別資源量指数は、毎月漁場を通過する魚群量を表していると考え、10月～1月の月別資源量指数を足し合わせたものを年間の刺し網資源量指数とし、年毎の産卵親魚の来遊量を評価した。なお、漁区別 CPUE の算出に使用した漁区は、ほぼ毎年使用されている 182 漁区～194 漁区及び 197 漁区に限定した (付図 1)。

また、刺し網漁具 1 反の長さは渡島管内では 27m、胆振管内では 45m と、海域により異なることから、本評価書では網長 45m を 1 反と定義し、反数を努力量の指標値として用いた。集計期間については、スケトウダラ固定式刺し網漁業の漁期は 10 月～3 月までとなっているが、TAC による操業規制等で 2 月以降の操業を行わなかった年度があることから、2 月以降は含まず 10 月～1 月とした。

・刺し網漁業年齢別資源量指数 (漁獲成績報告書：尾数ベース)

刺し網漁業の資源量指数を算出する際に得られた月別資源量指数 (kg/反) を、それぞれ対応する月の漁獲物の平均体重 (kg) で割り、年齢組成比で振り分けることにより、月別年齢別 CPUE (尾/反) を求めた。これらを月毎に合算することで、刺し網漁業の年齢別資源量指数を求めた。

・刺し網漁業の標準化 CPUE (操業日誌)

操業日誌は、2010 年度より渡島及び胆振地区のスケトウダラ刺し網船団の代表船 (18 隻) に依頼し、操業日ごとの操業位置 (緯度・経度)、使用した網数 (反)、漁獲量 (kg) を記入したものである。この操業日誌のデータを用いて標準化 CPUE を算出した。

CPUE の標準化には正規分布を仮定した一般化線形モデルを利用し、応答変数に対数変換した船別日別の CPUE を、説明変数に年、月、漁具の中央部の水深、漁具の浸漬日数、根拠港、操業エリアを用いた。CPUE は操業エリア、月、水深ごとに年変動パターンに違いみられたので、これらの説明変数はそれぞれ年との交互作用項としてモデル化した。操業データの中には漁獲が 0 であったデータも含まれたため、応答変数は CPUE に定数項を加えて対数変換したものとした。この定数項には、平均 CPUE の 10% の値を与えた (constant)。

$$\log(\text{CPUE} + \text{constant}) \sim \text{Year} * \text{Month} + \text{Year} * \text{Area} + \text{Year} * \text{Depth} + \text{Duration} + \text{Port} + \text{Intercept}$$

ここで、CPUE は日別船別の漁獲量 (kg) を努力量 (網長) で割った値、Year は操業日誌の記録が行われた 2010 年～2016 年、Month は 10 月～翌年 3 月 (年によっては 2 月以前に操業が終了していることもある)、Area は後述の方法で設定した操業エリア、Depth は後述の方法で推定した漁具の中央における水深 (m)、Duration は漁具の浸漬日数 (1 日～3 日)、Port は根拠港 (例えば、南かやべ漁協白尻港所属船であれば白尻) である。

漁具の中央部の水深の推定には ArcGIS を用いておこなった。日誌に記録された緯度・経度情報から、網の両端の位置を ArcMap 上にプロットし、両点を結ぶ直線を描画し、これを漁具の設置位置とした。次に、この直線の中間点を算出するツールを用いて、漁具の中間点を割り出し、別途作成した海底等深線のポリゴンから深度データを読み取り、漁具中間

点における水深とした。操業エリアは沖底漁区を基準とし、海域を11の操業エリアに分割した（付図2）。日誌に記録された操業位置のうち投網開始位置を基準にして、各操業データに操業エリアの情報を紐付けした。

・計量魚探調査による反応量推定値

噴火湾周辺海域に産卵のために来遊したスケトウダラの反応量を調べるため、漁期前の8月下旬（1次調査）、漁期中の11月下旬（2次調査）および産卵盛期の1月（3次調査）に「金星丸」を用いて計量魚探調査を実施した。この調査で、計量魚探機から出力されたスケトウダラの S_A （面積後方散乱係数：1平方海里当たりの散乱断面積の総和、単位： m^2/nmi^2 ）より、恵山岬から鶴川沖における海域平均 S_A を求めた。この値に調査面積を乗じて S_A 累積値（ m^2/nmi^2 ）を算出し、これをスケトウダラ反応量とした。

なお、2011、2014年度の1次調査および2011年度の2次調査については、海域内に例年になく未成魚が多く分布していたため、トロール結果から成魚のみの S_A 比率を算出し、これを海域平均 S_A に乘じ、成魚のみの海域平均 S_A を算出した⁵⁻⁷⁾。

(4)資源量の計算方法

資源尾数はPopeの近似式⁸⁾を用いたコホート解析（VPA）⁹⁾で算出した。7歳以下の資源尾数算出には下記の(1)式、最近年および最高齢（8歳以上のプラスグループ）の資源尾数については(2)式、漁獲死亡係数の算出には(3)式を用いた。また、8歳以上のプラスグループの資源尾数が比較的大きいことを考慮して、8歳の資源尾数を(4)式により推定し、7歳以下の計算に用いた。

$$N_{a,y} = N_{a+1,y+1}e^M + C_{a,y}e^{M/2} \dots (1)$$

$$N_{a,y} = C_{a,y}e^{M/2} / (1 - e^{-F_{a,y}}) \dots (2)$$

$$F_{a,y} = -\ln(1 - C_{a,y}e^{M/2} / N_{a,y}) \dots (3)$$

$$N_{8,y} = (1 - e^{-(F_{8^+,y} + M)})C_{8^+,y}e^{M/2} / (1 - e^{-F_{8^+,y}}) \dots (4)$$

ここで、 $N_{a,y}$ はy年度のa歳の資源尾数、 C は漁獲尾数、 M は自然死亡係数、 F は漁獲死亡係数を表す。最高齢における F はその1歳下の7歳の F と一致させた。また、最近年の最高齢における F はMS-EXCELのソルバー機能を用いて7歳の F との比が1になるように適当な初期値を与えて求めた。

2016年度の F については、以下の点を考慮して算出した。当海域の全漁獲量のおおよそ6割を占めている刺し網漁業では、2009年度～2013年度にかけて操業期間の調整を実施した（「2. 漁業の概要(2)資源管理の取り組み」参照）。また、刺し網漁業の振興局別の漁獲割合から、近年、スケトウダラ産卵群の分布状況に変化がみられているが、特に2014年度以降は胆振・日高海域に分布が偏った傾向がみられた（図4）。渡島振興局管内及び胆振管

内の刺し網船許可隻数を比べると渡島管内の許可隻数の方が2倍以上多いことから、分布が胆振側に偏った影響で、2014年度以降の漁獲圧が低下した可能性がある。これらの点から、2016年度と同様な操業状況、漁獲状況とみられる2014年度～2015年度の2ヶ年の F の平均値を2016年の F とした。また、資源重量については年齢毎の資源尾数に各年齢の平均体重を乗じて算出した。

文 献

- 1) 船本鉄一郎, 千村昌之, 山下夕帆, 田中寛繁, 石野光弘:平成28年度スケトウダラ太平洋系の資源評価. 平成28年度我が国周辺水域の漁業資源評価 第1分冊. 東京, 水産庁増殖推進部・独立行政法人水産総合研究センター, 407-453 (2016)
- 2) Nishimura A, Hamatsu T, Yabuki K and Shida O. Recruitment fluctuations and biological response of walleye pollock in the Pacific coast of Hokkaido. *Fish. Sci.*, 68(Suppl.), 206-209 (2002)
- 3) 釧路水産試験場:スケトウダラ(道東太平洋海域). 2017年度水産資源管理会議評価書. 北海道立総合研究機構水産研究本部. (2017, 作成中)
- 4) 函館水産試験場:道南太平洋海域スケトウダラニュース(平成27年度, 平成28年度). 北海道立総合研究機構函館水産試験場調査研究部. (2015, 2016)
(http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/hakodate/section/zoushoku/skh_n140000000w82.html)
- 5) 志田修:北海道東部太平洋海域におけるスケトウダラ年齢別分布水深. 北水試研報, 63, 9-19 (2002)
- 6) 本田聡:道南太平洋海域に分布するスケトウダラを対象とした音響調査. 水産音響資源調査マニュアル, 独立行政法人水産総合研究センター, 6-22 (2004)
- 7) 本田聡:音響資源調査によるスケトウダラ(*Theragra chalcogramma*)太平洋系群の若齢魚の年級豊度推定. 水研センター研報, 12, 25-126 (2004)
- 8) Pope, J. G. : An investigation of the accuracy of Virtual Population Analysis. *International Commission for the Northwest Atlantic Fisheries Research Bulletin*, 9, 65-74 (1972)
- 9) 平松一彦:VPA(Virtual Population Analysis). 平成12年度資源評価体制確立推進事業報告書-資源解析手法教科書-. 東京, 日本水産資源保護協会, 104-128 (2001)

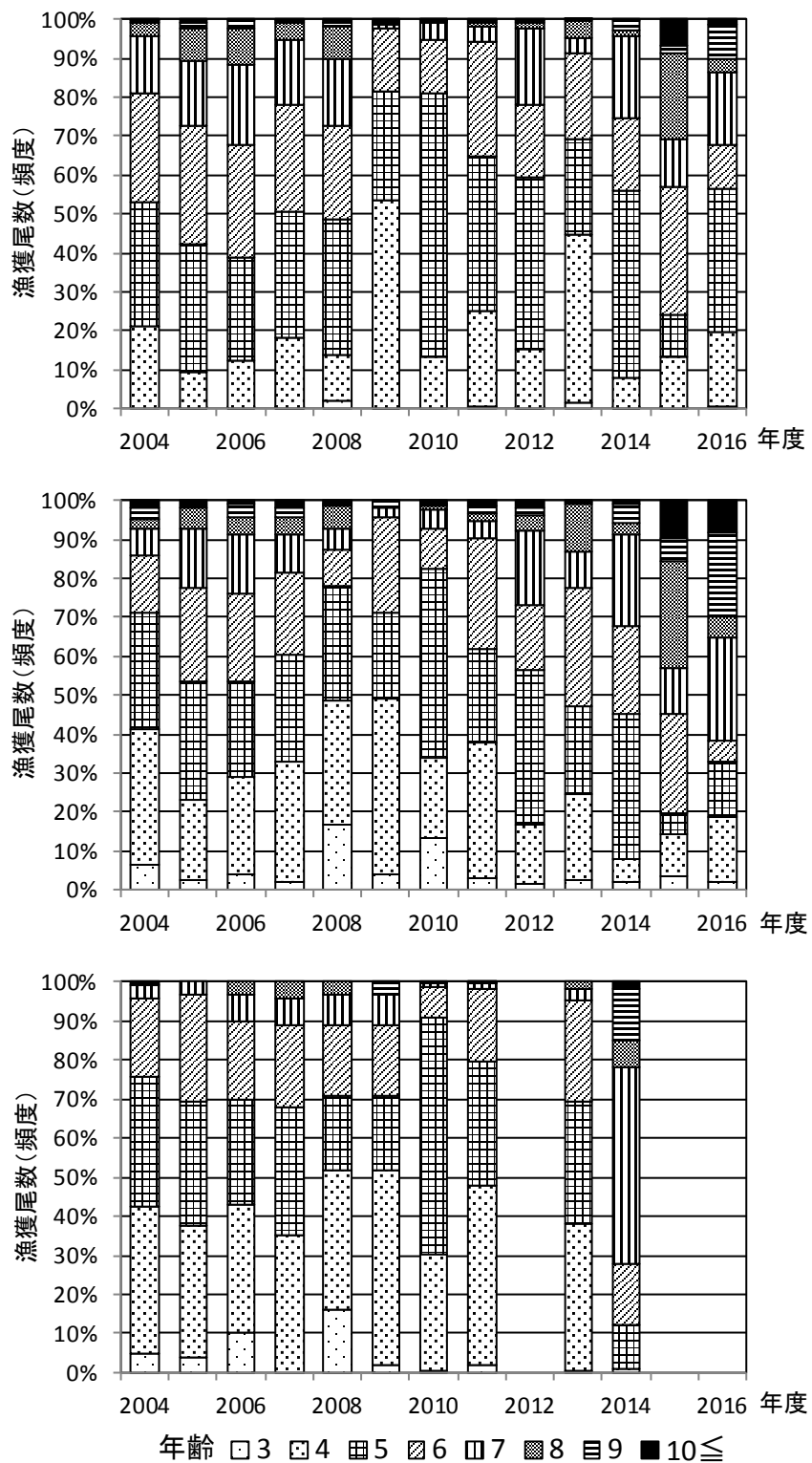


図1 道南太平洋海域におけるスケトウダラ漁獲物年齢組成の推移(漁法別)
 上: 刺し網, 中: 沖底, 下: 定置網
 2012, 2015, 2016年度の定置網は漁獲物の標本採集ができなかった

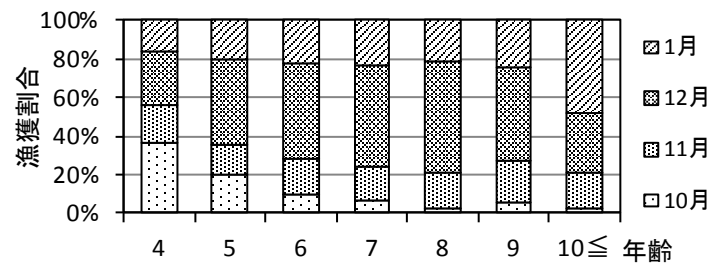


図2 スケトウダラ刺し網漁獲物における各年齢の月別漁獲割合(2014年度-2016年度平均)

表1 太平洋海域におけるスケトウダラTACの推移(トン)

年度	大臣管理分	北海道知事管理分(道南太平洋)		
	沖合びき網 (道南・道東・東北)	海域計	すけとうだら 固定式刺し網	その他
1997	85,000	60,000	44,900	若干量
1998	109,000	72,400	46,600	若干量
1999	136,000	92,100	54,400	若干量
2000	145,000	98,500	58,100	若干量
2001	145,000	98,500	61,200	若干量
2002	131,000	88,400	61,900	若干量
2003	112,000	85,600	64,900	若干量
2004	115,000	85,600	67,100	若干量
2005	100,000	79,000	60,200	若干量
2006	101,000	64,000	46,000	若干量
2007	92,000	58,100	46,000	若干量
2008	101,000	62,400	51,000	若干量
2009	101,000	63,400	51,500	若干量
2010	102,000	73,400	56,000	若干量
2011	113,000	76,900	57,400	若干量
2012	101,000	80,000	60,700	若干量
2013	106,000	77,100	58,700	若干量
2014	101,000	63,400	46,000	若干量
2015	105,000	68,400	49,600	若干量
2016	107,000	66,900	48,500	若干量
2017	109,600	68,100	49,400	若干量

表 2 道南太平洋海域におけるスケトウダラ漁業別漁獲量(単位:トン)

年度	沿岸漁業			沖底	合計
	刺網	定置網	その他		
1985	89,928	9,991	249	12,540	112,708
1986	82,644	1,972	250	14,108	98,973
1987	92,222	4,950	222	13,164	110,559
1988	65,242	12,093	260	7,514	85,108
1989	66,388	15,039	408	9,403	91,238
1990	36,276	12,351	393	10,048	59,069
1991	47,042	5,989	440	13,259	66,729
1992	66,473	15,009	374	16,734	98,590
1993	54,338	7,268	781	13,349	75,735
1994	32,409	13,711	496	21,931	68,546
1995	45,644	9,069	334	24,222	79,268
1996	30,940	15,565	245	12,969	59,718
1997	28,771	22,807	415	13,079	65,071
1998	52,388	28,675	206	16,508	97,778
1999	84,911	39,255	254	28,320	152,740
2000	73,289	17,525	183	21,607	112,605
2001	46,015	7,552	354	19,843	73,762
2002	19,685	922	169	15,237	36,013
2003	28,665	16,037	265	19,726	64,692
2004	45,779	24,043	284	19,935	90,042
2005	49,539	10,960	219	19,838	80,556
2006	45,933	3,177	285	19,743	69,139
2007	47,873	6,136	535	26,699	81,243
2008	46,613	4,928	411	21,652	73,604
2009	55,673	9,962	410	18,968	85,012
2010	55,362	21,241	616	19,027	96,246
2011	40,769	18,750	449	19,769	79,738
2012	45,325	4,581	131	20,086	70,123
2013	47,335	4,997	148	20,229	72,709
2014	41,778	759	105	21,529	64,171
2015	32,338	1,416	118	16,009	49,880
2016	24,776	924	117	14,702	40,520

資料: 刺し網(すけとうだら固定式刺し網漁業以外の刺し網漁業も含む),

定置網は漁業生産高報告の渡島(旧恵山町~長万部町; 八雲町熊石地区を除く), 胆振総合振興局および日高振興局。沖底は北海道沖合底曳網漁業漁獲統計年報の中海区襟裳以西。集計期間は4月~翌年3月。

2015・16年度は水試集計速報値

表3 道南太平洋海域における主要漁業によるスケトウダラの月別漁獲量

刺し網													単位:トン	
年度\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年度計	
2001	43	38	26	1	1	11	5,388	3,383	13,384	16,141	7,415	185	46,015	
2002	4	17	29	2	14	146	2,798	2,208	6,010	6,837	1,572	46	19,685	
2003	5	12	18	7	7	47	6,788	3,201	11,814	5,009	1,400	358	28,665	
2004	4	79	147	11	10	311	5,673	8,403	20,416	7,125	2,667	933	45,779	
2005	10	34	39	4	53	235	10,633	5,024	13,554	14,421	4,967	566	49,539	
2006	17	54	87	66	6	58	10,688	6,868	14,950	9,859	3,091	190	45,933	
2007	31	52	118	9	51	659	9,073	9,549	21,323	6,088	713	208	47,873	
2008	12	92	169	81	88	862	5,451	5,776	14,001	17,013	2,831	238	46,613	
2009	16	94	149	81	449	859	12,096	12,470	17,994	9,767	1,531	166	55,673	
2010	31	48	344	268	439	668	8,194	13,189	20,290	10,021	1,748	123	55,362	
2011	14	69	117	100	44	116	2,916	12,704	17,150	5,887	1,307	344	40,769	
2012	5	44	181	25	11	7	3,531	8,018	16,685	12,908	3,239	670	45,325	
2013	7	21	146	11	4	15	4,849	6,662	22,111	10,634	2,442	431	47,335	
2014	10	73	57	6	9	41	5,872	6,909	17,008	7,697	3,824	271	41,778	
2015	29	39	121	20	16	104	3,095	6,195	17,061	4,542	1,024	92	32,338	
2016	16	34	38	35	26	80	3,413	2,975	8,801	7,800	1,482	77	24,776	

定置網													単位:トン	
年度\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年度計	
2001	0	0	0	0	0	0	0	0	1,535	5,016	997	3	7,552	
2002	0	0	0	0	0	0	0	2	112	656	151	0	922	
2003	0	0	0	0	0	2	2	1	13,249	2,745	35	0	16,037	
2004	24	3	2	0	0	0	0	763	20,627	2,366	256	2	24,043	
2005	2	1	0	0	0	0	0	0	7,155	3,772	29	1	10,960	
2006	0	75	134	0	0	0	0	0	2,097	321	549	1	3,177	
2007	11	390	491	0	0	0	0	17	1,881	3,339	7	0	6,136	
2008	5	841	833	0	0	0	0	0	278	2,897	58	15	4,928	
2009	23	426	819	0	0	0	0	0	8,103	578	12	0	9,962	
2010	102	462	1,240	1	0	1	1	30	17,571	1,586	246	1	21,241	
2011	11	1,383	324	1	0	2	2	1,578	14,122	1,255	70	2	18,750	
2012	101	720	1,099	2	0	1	0	865	1,400	391	2	0	4,581	
2013	3	219	559	1	0	0	0	14	3,690	507	3	2	4,997	
2014	5	145	12	0	0	0	0	4	203	48	335	9	759	
2015	8	76	21	0	0	0	0	164	289	666	190	1	1,416	
2016	15	431	11	0	0	0	0	3	313	148	3	0	924	

沖底(道南太平洋海域)													単位:トン	
年度\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年度計	
2001	117	0	0	0	0	2,229	3,072	792	2,567	4,757	5,681	629	19,843	
2002	110	0	0	0	0	2,278	1,771	141	2,364	5,189	1,793	1,592	15,237	
2003	391	0	0	0	0	3,013	1,715	1,251	3,866	3,401	4,259	1,829	19,726	
2004	18	0	0	0	0	3,186	2,600	1,644	3,186	5,083	3,683	534	19,935	
2005	56	0	0	0	0	3,654	2,819	1,228	3,525	6,020	2,019	516	19,838	
2006	156	0	0	0	0	3,940	2,527	1,205	4,045	4,646	2,338	886	19,743	
2007	1,473	0	0	0	0	3,915	3,789	3,009	7,840	4,649	1,427	599	26,699	
2008	6	17	0	0	0	3,846	3,365	3,015	5,678	3,616	1,397	712	21,652	
2009	38	61	0	0	0	4,468	3,110	2,729	5,736	1,860	582	384	18,968	
2010	5	0	0	0	0	2,329	3,057	3,436	4,662	2,415	2,587	536	19,027	
2011	176	0	0	0	0	3,027	2,708	4,009	6,015	3,069	538	229	19,769	
2012	12	0	0	0	0	1,127	2,546	4,847	5,493	4,116	956	988	20,086	
2013	104	0	0	0	0	1,688	2,579	4,897	5,601	2,885	2,169	306	20,229	
2014	29	0	0	0	0	773	1,452	3,595	7,735	4,072	2,023	1,849	21,529	
2015	794	0	0	0	0	550	1,302	3,492	6,165	1,843	1,416	447	16,009	
2016	52	0	0	0	0	1,321	795	1,007	5,053	5,103	855	517	14,702	

沖底(24-27海区)													単位:トン	
年度\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年度計	
2001	3	0	0	0	0	231	1,493	237	2,540	4,419	4,763	548	14,235	
2002	0	0	0	0	0	207	388	51	2,363	5,050	1,077	333	9,468	
2003	10	0	0	0	0	295	326	452	3,682	3,143	2,869	948	11,725	
2004	0	0	0	0	0	108	326	1,590	3,183	4,441	3,018	372	13,038	
2005	5	0	0	0	0	248	846	1,086	3,407	5,310	1,384	413	12,699	
2006	0	0	0	0	0	307	635	669	3,975	4,467	1,531	777	12,362	
2007	0	0	0	0	0	0	879	2,546	7,127	3,866	961	488	15,866	
2008	0	0	0	0	0	0	586	2,431	5,480	3,205	557	524	12,783	
2009	0	0	0	0	0	0	1,516	2,626	5,662	1,860	389	302	12,355	
2010	0	0	0	0	0	0	524	3,151	4,554	2,410	1,156	429	12,224	
2011	0	0	0	0	0	0	1,392	3,415	6,007	3,053	399	208	14,475	
2012	0	0	0	0	0	0	2,124	4,265	4,685	3,413	604	750	15,841	
2013	0	0	0	0	0	0	758	4,223	5,344	2,588	1,443	132	14,488	
2014	0	0	0	0	0	0	103	2,782	7,676	3,390	1,537	1,274	16,763	
2015	0	0	0	0	0	0	662	3,007	5,494	1,553	1,232	330	12,277	
2016	0	0	0	0	0	0	97	909	4,545	4,960	468	208	11,188	

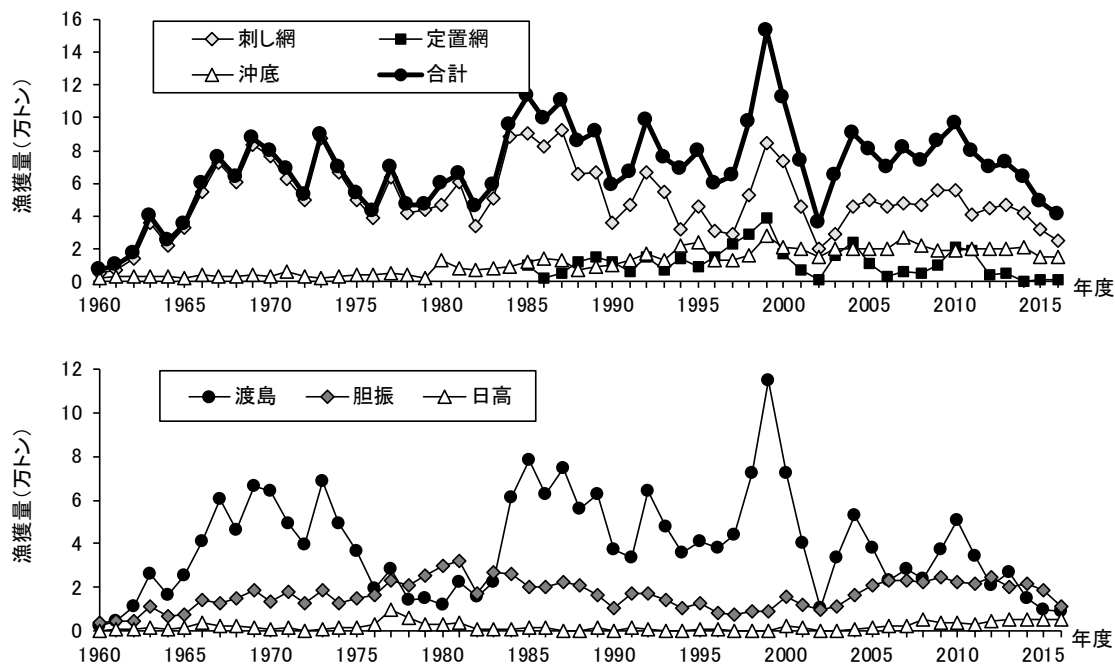


図3 道南太平洋海域におけるスケトウダラ漁法別(上)および振興局別(下)漁獲量の推移(1984年度までは漁期計(10月~3月),以降は年度計(4月~3月))
 なお、漁法別漁獲量のうち、1984年度までは定置網の集計値はなし。
 また、振興局別漁獲量には沖底漁獲量を含まない。
 2015, 2016年度は水試集計速報値。

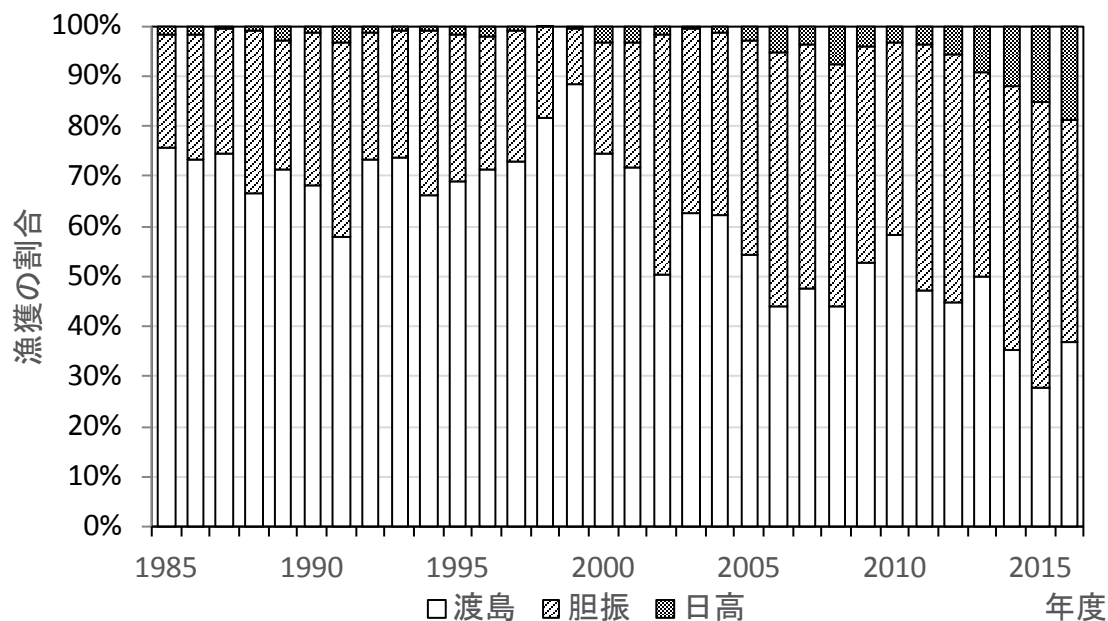


図4 刺し網漁業による漁獲に占める各振興局別管内の漁獲の割合

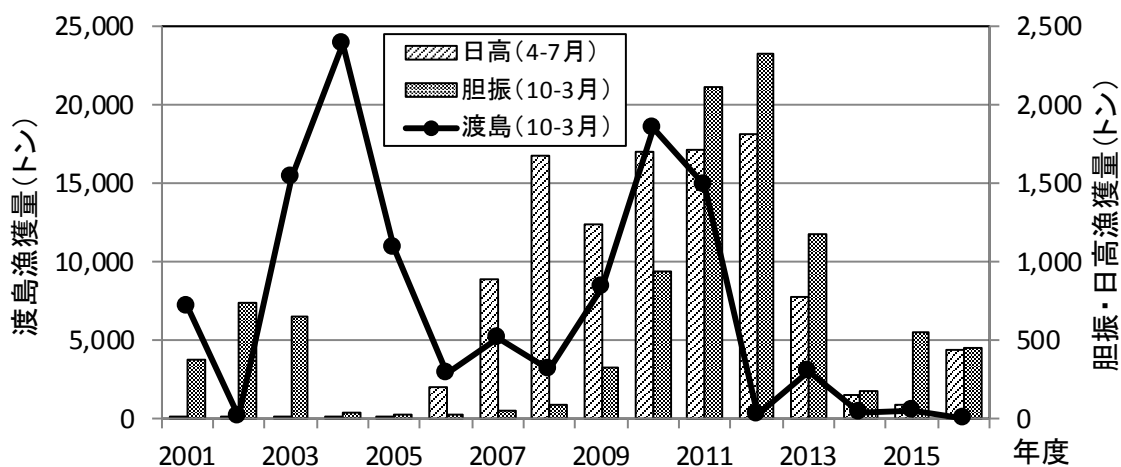


図5 定置網漁業におけるスケトウダラ漁獲量の推移(振興局別)

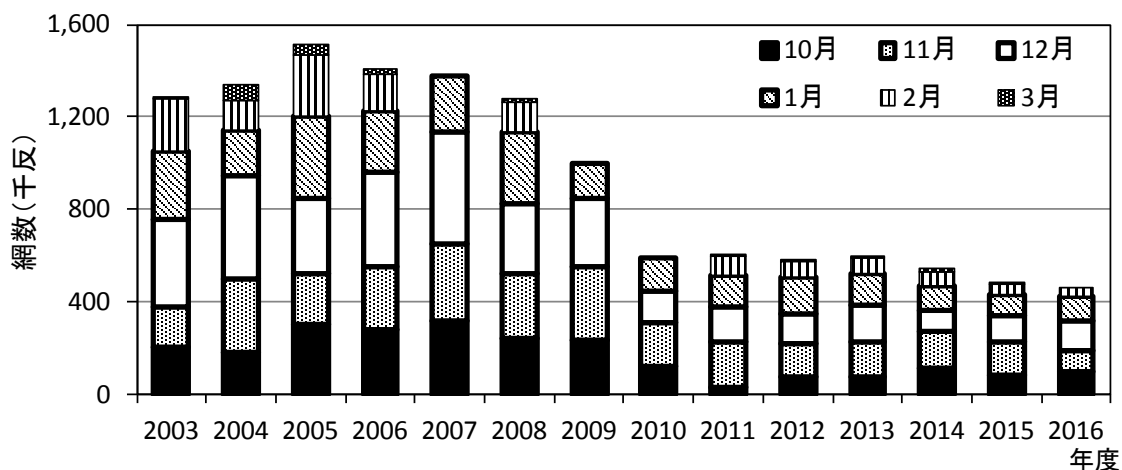


図6 漁獲成績報告書に基づくスケトウダラ刺し網漁業における漁獲努力量(反数)の推移
 資源量指数の集計には10月~1月の値(黒枠内)を用いた

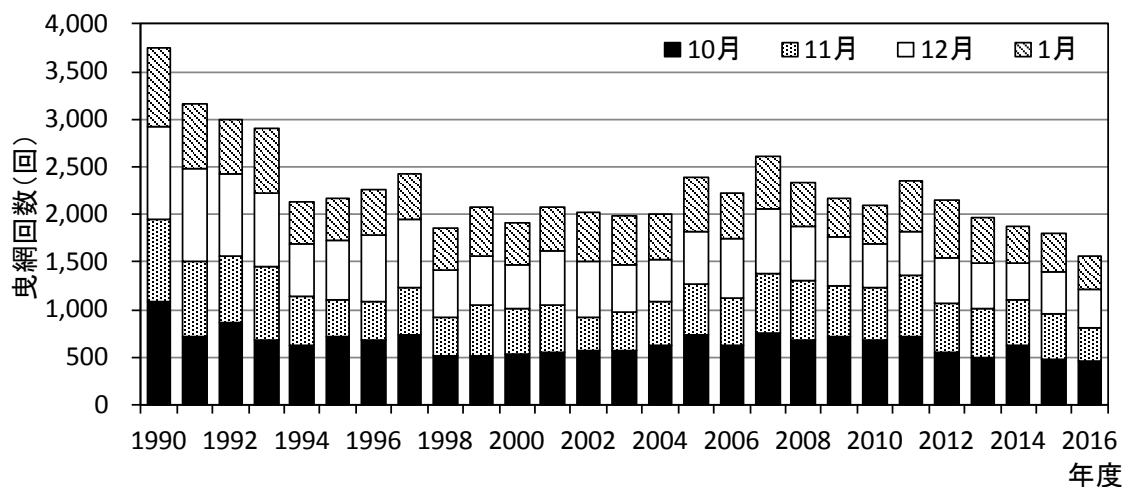


図7 沖底漁業における漁獲努力量(曳網回数:10月~1月)の推移

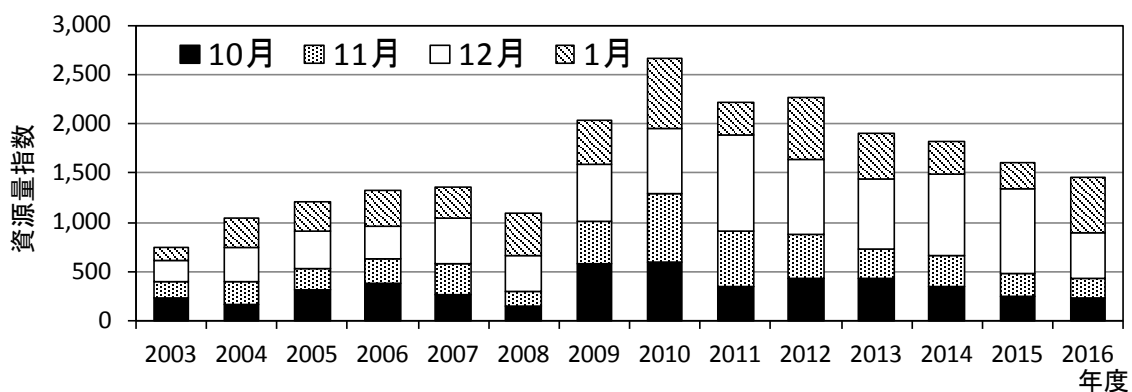


図8 スケトウダラ刺し網漁業の資源量指数(重量ベース)の推移
(南かやべ, 鹿部, いぶり中央漁協の漁獲成績報告書の集計値)

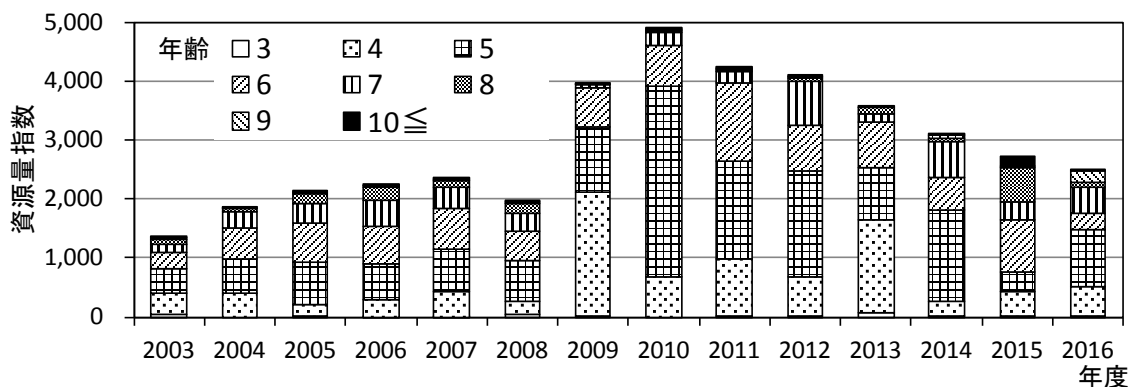


図9 スケトウダラ刺し網漁業の年齢別資源量指数(尾数ベース)の推移

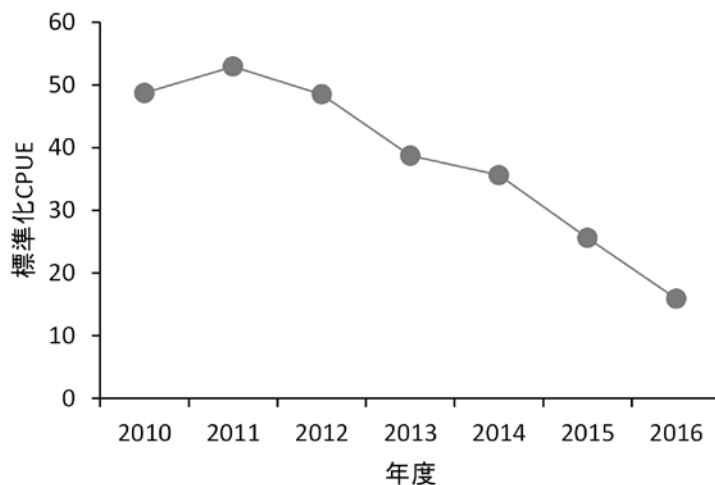


図 10 スケトウダラ刺し網漁業操業日誌に基づく標準化 CPUE 推移

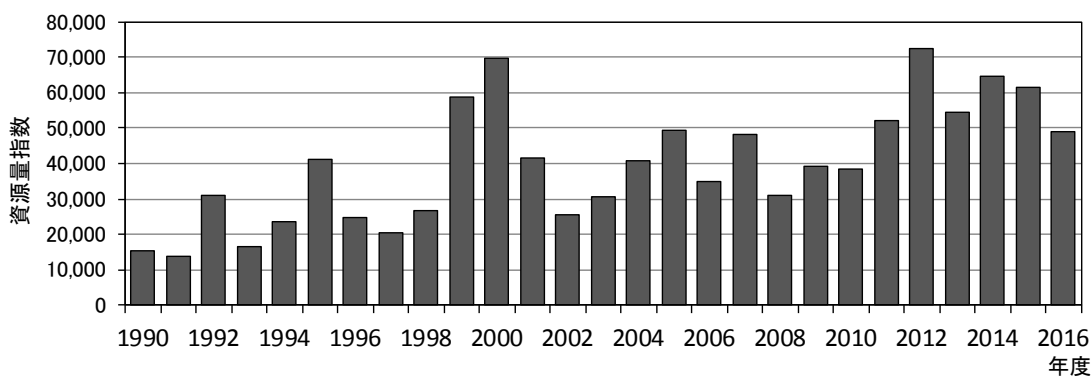


図 11 沖底漁業におけるスケトウダラ資源量指数の推移

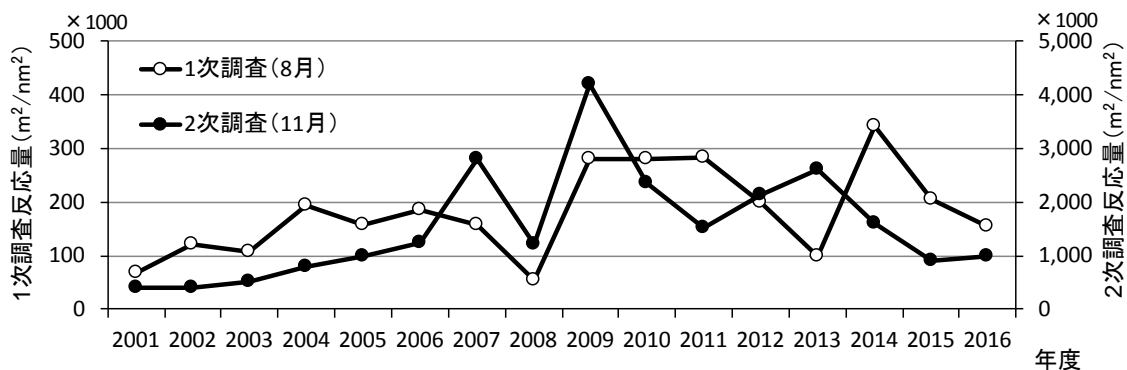


図 12 調査船による計量魚探調査の結果から推定したスケトウダラ産卵群の時期別反応量の推移(S_A 累積値)

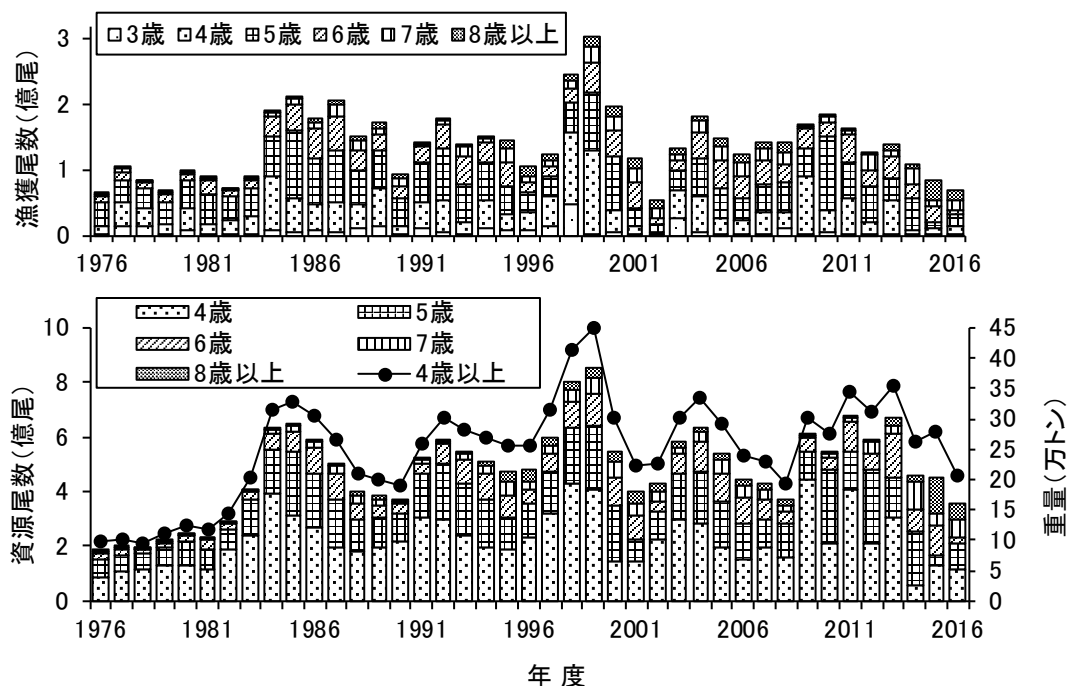


図 13 道南太平洋海域におけるスケトウダラ年齢別漁獲尾数(上図), 年齢別資源尾数(下図の棒グラフ)および4歳以上の資源重量(下図の折れ線グラフ)の推移

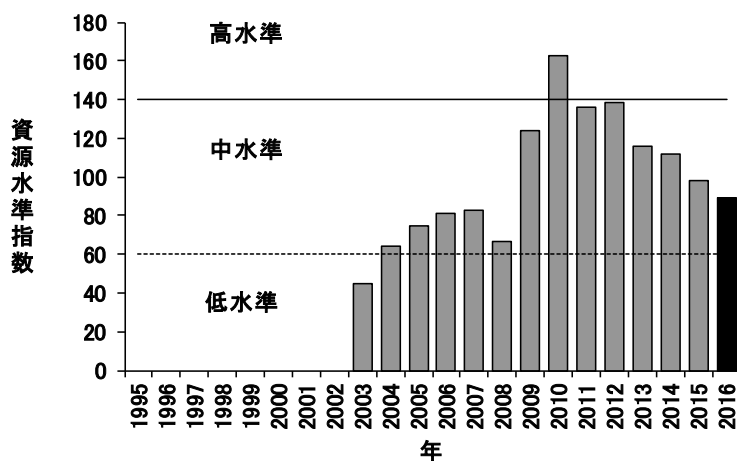


図 14 道南太平洋海域におけるスケトウダラの資源水準(資源状態を示す指標: 刺し網資源量指数)

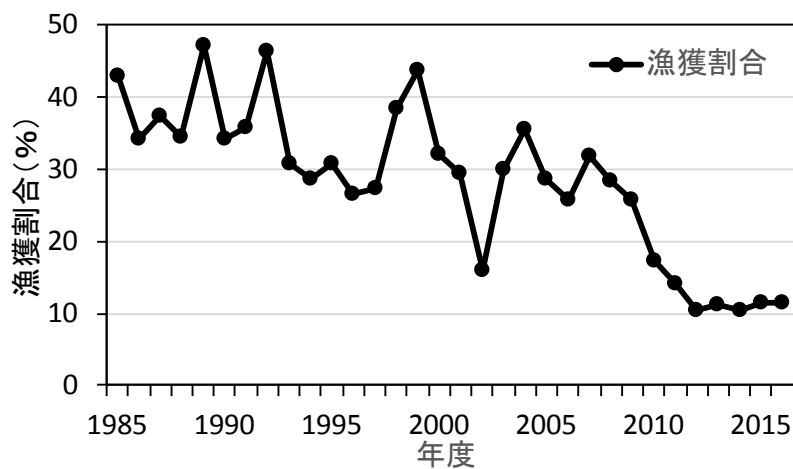


図 15 スケトウダラ太平洋系群全体の親魚量に対する産卵親魚の漁獲割合の推移

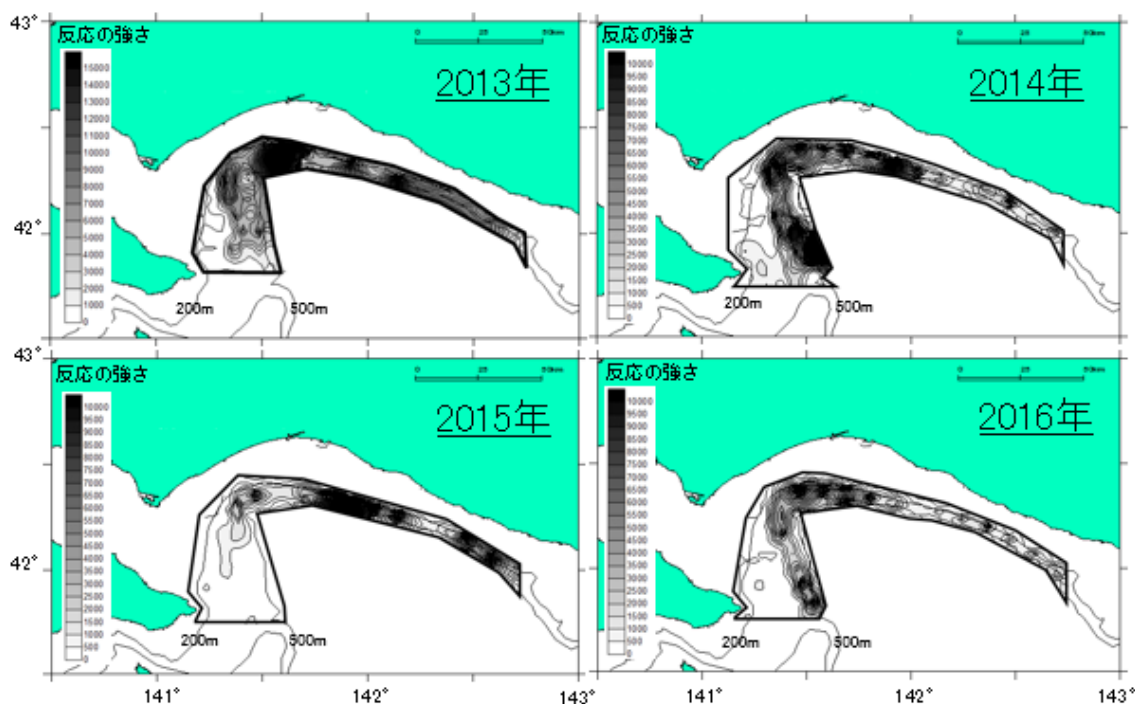


図 16 調査船による計量魚探調査の結果から推定した2次調査時(11月)のスケトウダラ産群の分布

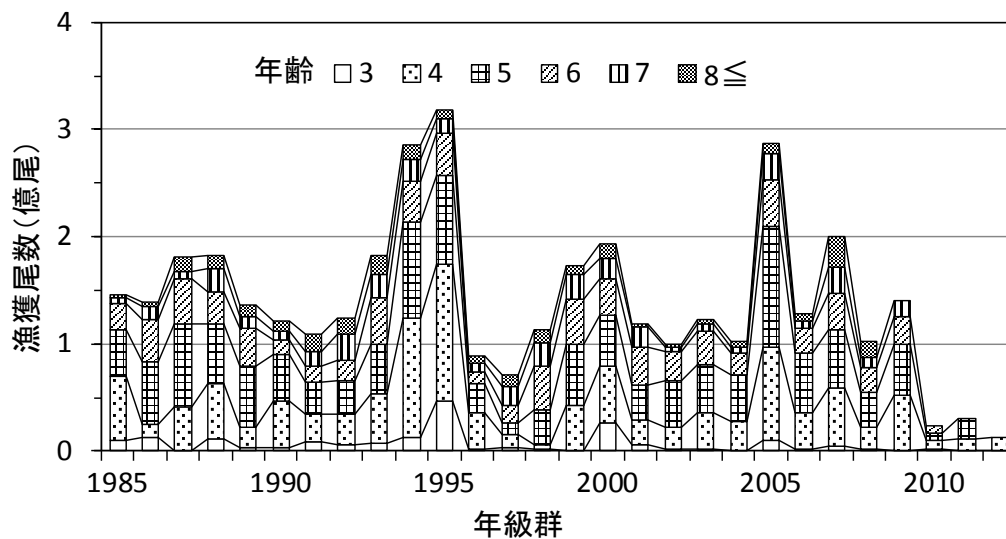
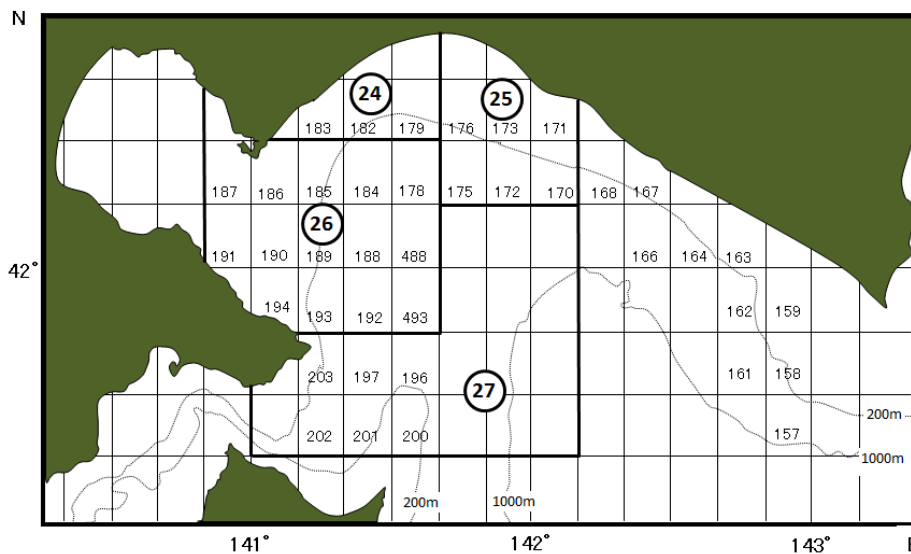
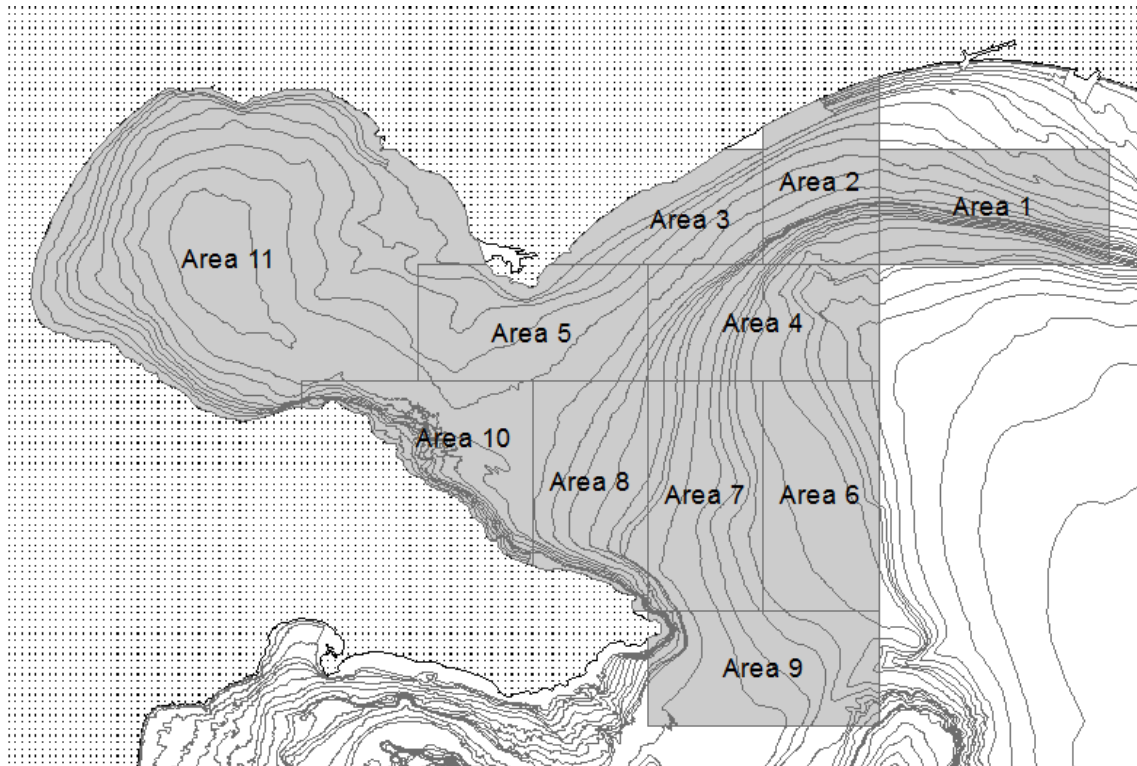


図 17 道南太平洋海域におけるスケトウダラ年級群別漁獲尾数の推移



付図 1 沖底漁業における CPUE 集計対象海区(黒枠内)



付図 2 操業日誌に基づく CPUE の算出に用いた操業エリア

付表 スケトウダラ(道南太平洋海域)VPAワークシート

スケトウダラ M= 0.25
 $F_t = 7$ 歳の F に等しいと仮定

年齢別漁獲尾数 ×1000

年齢	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
3歳	3,959	1,353	782	25,969	5,474	1,960	2,068	1,033	9,947	2,267	5,201	2,354	707	2,343	911	1,023	831
4歳	34,282	12,053	5,077	41,258	53,565	23,106	20,975	33,357	26,472	86,882	33,655	53,400	19,377	51,160	7,526	10,478	12,319
5歳	83,197	27,787	10,389	31,778	57,582	47,991	32,464	43,346	45,616	43,395	113,355	55,160	54,715	33,812	47,758	7,596	19,733
6歳	37,110	39,600	10,987	16,613	41,297	42,067	33,202	36,577	27,277	31,189	21,022	42,749	23,302	34,240	21,979	25,634	6,177
7歳	21,813	21,173	12,766	8,296	16,696	21,028	23,009	19,577	18,576	3,828	6,859	5,281	24,833	7,507	24,069	10,054	14,639
8歳以上	14,990	16,790	13,668	8,473	6,766	11,914	12,993	8,908	12,618	2,780	1,852	3,571	4,932	9,342	6,399	29,182	14,348
計	195,351	118,756	53,670	132,387	181,380	148,066	124,711	142,799	140,506	170,342	181,943	162,515	127,866	138,404	108,643	83,968	68,047
4歳以上計	191,392	117,403	52,888	106,418	175,906	146,106	122,643	141,766	130,559	168,075	176,742	160,161	127,159	136,061	107,731	82,945	67,216
漁獲量	112,605	73,762	36,012	64,692	90,042	80,556	69,139	81,243	73,604	85,012	96,246	79,738	70,123	72,709	64,171	49,880	40,520

年齢別資源尾数 ×1000

年齢	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	予想 2017
3歳	189,187	290,252	382,283	389,349	258,231	199,684	250,467	209,837	579,482	273,311	532,718	268,957	394,941	79,913	165,376	153,590	136,601	
4歳	145,605	143,845	224,854	297,032	280,308	196,279	153,784	193,238	162,510	442,523	210,854	410,292	207,387	306,957	60,169	127,991	118,713	102,291
5歳	201,918	83,144	101,390	170,636	194,919	171,033	132,472	101,257	121,057	103,201	267,964	134,514	272,410	144,413	193,909	40,218	90,433	81,582
6歳	104,592	83,834	40,230	69,794	104,847	100,986	90,849	74,520	40,606	54,023	42,077	108,655	56,081	163,867	82,630	108,870	24,618	53,015
7歳	54,714	48,707	30,343	21,636	39,694	45,211	41,524	41,452	25,757	7,553	14,549	14,218	46,894	23,112	97,403	44,956	62,166	13,721
8歳	21,546	23,361	19,248	12,365	9,529	16,180	16,653	12,033	15,006	3,667	2,503	5,278	6,413	14,607	11,375	54,617	26,139	
8歳以上	37,600	38,626	32,487	22,096	16,085	25,615	23,449	18,862	17,497	5,485	3,928	9,614	9,314	28,763	25,895	130,487	60,929	70,286
計	733,617	688,407	811,586	970,543	894,084	738,809	692,544	639,167	946,909	886,095	1,072,091	946,249	987,027	747,024	625,382	606,112	493,460	320,895
4歳以上計	544,429	398,155	429,304	581,194	635,853	539,125	442,077	429,329	367,427	612,784	539,373	677,292	592,085	667,111	460,006	452,522	356,859	320,895
5歳以上計	420,370	277,671	223,698	296,527	365,074	359,025	304,947	248,124	219,923	173,929	331,022	272,278	391,111	374,761	411,212	379,148	264,285	218,604

2017年(予想)の4歳の資源尾数は直近3年間 2014-2016年度(2010~2012年級)の4歳資源尾数の平均値

Fの算出

年齢	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
3歳	0.024	0.005	0.002	0.079	0.024	0.011	0.009	0.006	0.020	0.009	0.011	0.010	0.002	0.034	0.006	0.008	0.007
4歳	0.310	0.100	0.026	0.171	0.244	0.143	0.168	0.218	0.204	0.252	0.200	0.160	0.112	0.209	0.153	0.097	0.125
5歳	0.629	0.476	0.123	0.237	0.408	0.383	0.325	0.664	0.557	0.647	0.653	0.625	0.258	0.308	0.327	0.241	0.284
6歳	0.514	0.766	0.370	0.314	0.591	0.639	0.535	0.812	1.432	1.062	0.835	0.590	0.636	0.270	0.359	0.310	0.335
7歳	0.601	0.678	0.648	0.570	0.647	0.749	0.989	0.766	1.699	0.854	0.764	0.546	0.916	0.459	0.329	0.292	0.310
8歳以上	0.601	0.678	0.648	0.570	0.647	0.749	0.989	0.766	1.699	0.854	0.764	0.546	0.916	0.459	0.329	0.292	0.310

資源重量(t)

年齢	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	予想 2017
3歳	68,182	104,606	137,774	140,320	93,065	71,966	90,267	75,625	208,844	98,500	191,990	96,931	142,336	28,800	59,601	55,353	49,231	
4歳	68,020	67,198	105,042	138,760	130,947	91,693	71,841	90,272	75,917	206,727	98,502	191,670	96,882	143,396	28,108	59,792	55,457	47,786
5歳	105,971	43,635	53,211	89,553	102,297	89,761	69,524	53,142	63,533	54,162	140,632	70,595	142,966	75,790	101,767	21,107	47,461	42,816
6歳	61,353	49,176	23,599	40,940	61,502	59,238	53,291	43,713	23,819	31,689	24,682	63,736	32,896	96,123	48,470	63,862	14,441	31,098
7歳	35,965	32,016	19,945	14,222	26,092	29,718	27,295	27,248	16,931	4,964	9,563	9,346	30,825	15,192	64,025	29,551	40,863	9,019
8歳以上	30,024	30,843	25,941	17,644	12,844	20,454	18,724	15,061	13,972	4,380	3,137	7,677	7,437	22,967	20,677	104,196	48,653	56,125
Total	369,515	327,475	365,511	441,439	426,748	362,830	330,942	305,060	403,016	400,423	468,506	439,955	453,341	382,269	322,649	333,861	256,106	186,843
4歳以上計	301,332	222,869	227,738	301,119	333,683	290,864	240,675	229,435	194,172	301,922	276,516	343,023	311,006	353,469	263,048	278,508	206,875	186,843
5歳以上計	233,312	155,671	122,696	162,359	202,736	199,171	168,834	139,163	118,255	95,196	178,015	151,354	214,124	210,073	234,940	218,716	151,418	139,058